

「そこに愛はあるか？」

デザインという言葉は誰でも聞いたことがあるし、誰でも日常的に使っています。ところが、それが何なのか？ということは殆ど意識されることがありません。

英語のDesignを日本語に訳すと、意匠や設計と表すことが多いですが、今日におけるカタカナのデザインという言葉は、意匠や設計という言葉では表しきれなくなり、日々その意味が拡大し続けています。

それでも、例えば「暮らしのデザイン」などというように、その対象が目に見えないものであっても、自ずとそこには美意識を内包していると思われ、決してネガティブな意味合いを込めてデザインという言葉が使われることはありません。「完璧な平面の上の完璧な球は、平面と接しているのか接していないのか？」時々こういった問い掛けを学生にしますが、デザインを探究することは、こういうことを真剣に考えてみることに似ています。

元々は学生が描いていたスケッチを見て、「球と地面は点で接しているのだから、その影の落ち方はおかしい」と言った自分の言葉を良く考え直してみたことから始まったことでした。仮にそれが完璧な球で、地面も完璧な平面ならば、球は地面と触れることができないはずだし、逆に言えば触れた時点で完璧ではなくなるという、ある種のパラドックスが生じるわけです。このように、目の前に起きている現象にさえ、疑念や異なる角度からの視点を持ちながら向き合ってみると、自分の概念になかった新鮮でクリエイティブな発想に繋がっていきます。

最後に。「恋人に贈る花を選び始めた瞬間にデザインが始まる」と言ったのは、デザイン界の巨匠、エットレ・ソットサスです。この言葉の中には、デザインの根源が愛にあるということを込めています。

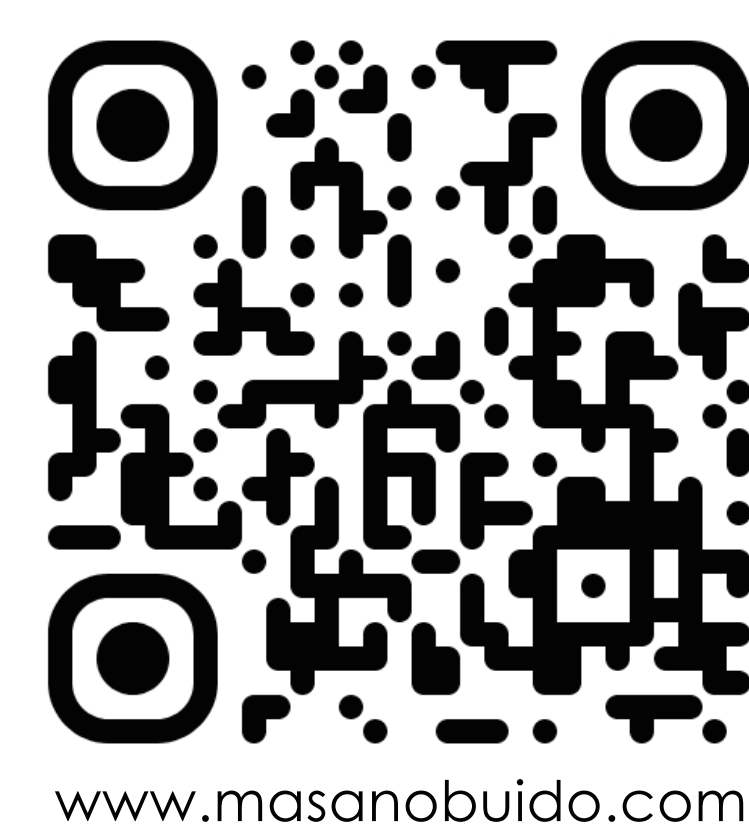
拡大していく概念と変わらない根源、この両方を丁寧に紡ぎ、私は日々覚醒、拡張し続けるデザインと向き合い、人々が何を想い、デザインとは何なのかを探っています。そして、あらゆる学問、あらゆる思想と交わりながら、美と知恵で解を探し、「そこに愛はあるか？」と自問し続けていきたいと思っています。

美術教育講座教授

MASANOBU IDO
井戸 真伸

研究専門分野：デザイン

2009年よりヘルシンキ芸術デザイン大学客員教授、アラビア・アートデパートメント客員アーティストを務め、両ポストを行き来しながら、「人」「生活」「デザイン」についての関わりと研究を深める。近年はデザイン、アート、エンジニアリングなど、カテゴライズされた概念に囚われない創造的活動を、特にこれらが混じり合った曖昧な箇所に注目しながら渡る試みに奮闘している。国内外にて20の受賞、33のパーマネントコレクション。2021年 Center of Contemporary Artists (Italy) 世界Top10に選出。



www.masanobuido.com

